

育LOMのすゝめ

様々なライフステージにある
メンバーの誰もが活躍できるJCへ
家庭も仕事もJCも全力応援！



公益社団法人日本青年会議所
LOM支援委員会

♂ 育LOMとは

育LOMとは、結婚や妊活、育児や家事などに積極的に参加しながらも、メンバーの誰もが活躍できるLOMとその環境や取り組みを指します。

♂ 育LOM(導入)認定までの流れ

育LOMの認定には、LOMメンバー共通の意思として理事長に宣言を行なっていただく「育LOM宣言」と、多様なメンバーが活躍できる組織環境を構築する「育LOMの5つの取り組み」の内、3つに取り組んでいただくことが必要です。



地域：出生率の向上と日本（地域）経済の発展
LOM：誰もが地域において活躍できる組織としてのブランディング

LOMメンバーの結婚や出産、育児を全力で応援します！

育LOM宣言6ヶ条

- 一、私たちはメンバーそれぞれの多様なライフステージを尊重し、育児や家庭を優先する事への理解を示します。
- 一、私たちは、メンバーが家族と過ごす時間を増やすために、効率の良い組織運営を心がけます。
- 一、私たちは、IT等の先進的な技術を積極的に活用し、事業や会議等へのメンバーの多様な参画方法を模索します。
- 一、私たちは、出産や育児で休会等を行っていたメンバーが復会しやすい環境を作り、温かく迎えます。
- 一、私たちは、メンバーご家族のJC運動に対する継続的な理解を心がけ、そのための取り組みや情報発信を推進します。
- 一、上記5ヶ条を理事長はじめ役員が率先して実践し、LOM全メンバーの共通の意志としてここに育LOM宣言を行ないます。

メンバーが一同に会する例会等で、LOMの全メンバーの共通の意志として、宣言を行なってください。

育LOM5つの取り組み

① Family Day

LOM全体でJC活動ができていることを感謝し、家族に感謝を表すための一日をつくる

② スマート会議

(WEB会議の導入、時短会議の設定、会議終了時刻の遵守、議事進行方法の工夫、事前準備の徹底)

③ 子連れJayceeへの^{しんしゃく}斟酌

託児制度、子連れ参加等

④ JCに対する家族と会社の理解を促進する事業や取り組みの創出

⑤ 誰でも産前産後育児休業制度の導入

男女問わず・会費全額or一部免除

上記の5つの取り組みの内、LOMとして3つ以上の制度や取り組みを行なってください。



♂ 育LOMにはこんな効果が！

★育LOM認定によって、メンバーが活躍しやすいLOMとして、会員拡大や退会者抑制に効果が期待されます！

★メリハリのあるJC活動により、ワークライフ&JCバランスの向上が期待されます！

01 Family dayの導入

- ・家族サービスの時間が取れた！
- ・メリハリある生活になった！

03 子連れ参加

- ・子どもが居ると場が和む！
- ・子どもが居ることで、「早く帰ろう！」という意識が働き、会議の効率が良くなった！
- ・無理に懇親会に出る必要がなくなった！
- ・妻に感謝された！

02 スマート会議の導入

- ・活動エリアが広く集まりにくかったメンバーでも参加しやすくなった！
- ・WEB会議を浸透することで社内の働き方改革に繋がれそう！
- ・時おり画面に子どもが映るなど、和やかなムードになった！
- ・終了時間の目安ができて助かった！
- ・集中して闊達な議論ができた！

5つの取り組み
を実施している
メンバーの声

04 家族と会社の理解

- ・家族や社員が事業に参加したことによって、理解を示してくれた！
- ・配偶者同士や子ども同士が仲良くなって、プライベートでもつながりが出来たと喜んでいました！
- ・家族や会社の理解がないとJC活動は成り立たないため、必要なことだと思う！
- ・家族との時間が増えるし、家族が事業への参加を楽しみにしている！

05 産前産後育児休会制度の導入

- ・女性会員からとても活動しやすくなったとの声があった！
- ・出産と育児を機会に退会する女性が減った！
- ・介護による休会制度も検討しています！



育LOM導入後



育LOM導入前



Q. 育LOM宣言はどのような形で行なえば良いですか？

A. LOM全体の意識共有が目的となりますので、通常例会やWEB例会、総会などLOMの全メンバーが対象の事業の中で時間を設けていただき、理事長又は代表者により宣言を行なってください。

Q. 育LOMの5つの取り組みは全て取り組む必要がありますか？

A. 育LOMの認定には、育LOMの5つの取り組みの内、最低でも3つ以上の取り組みを行なっていただきます。5つの内、どの取り組みを行うかは任意です。



Family day

概要

LOMのスケジュール

Family day とは、LOM 全体で JC 活動を休む日を設定し、その日は育児や家族・パートナーとの時間に充てることで、JC ライフバランス (JC と私生活の両立) の向上を図ります。

効果

育児や仕事、JCで平行して活躍するためには、メリハリのある活動が大事です。オンオフを切り替え、必要以上に時間を掛けずに効率の良いJC活動を目指すことはLOMメンバーのスキルアップに繋がります。また、事前に Family day をLOMメンバーやご家族に周知することで予定が組みやすくなり、家族やパートナーとの充実した時間に費やすことが可能となります。

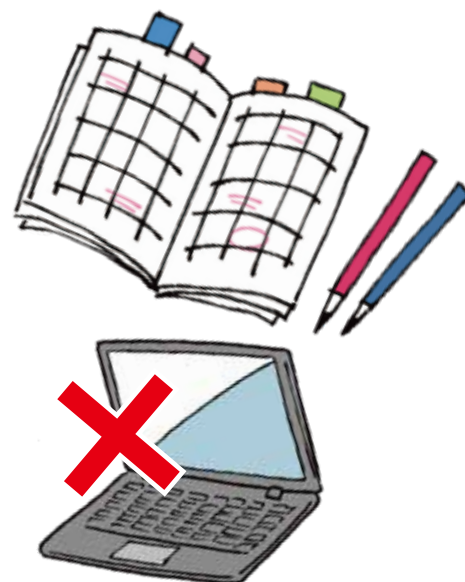
取り組み例

LOMのスケジュールの中で、月に1回以上の Family day (全メンバーが家族に感謝を表すための日)を設定し、その日はLOMメンバーに活動の自粛を推奨しましょう。

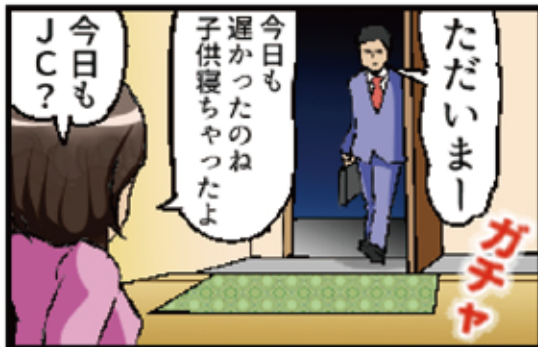
Family day を会員手帳に記載するなど、LOMメンバー及びメンバーのご家族に取り組みの存在を広く周知することが重要です。

取り組みを家族に周知

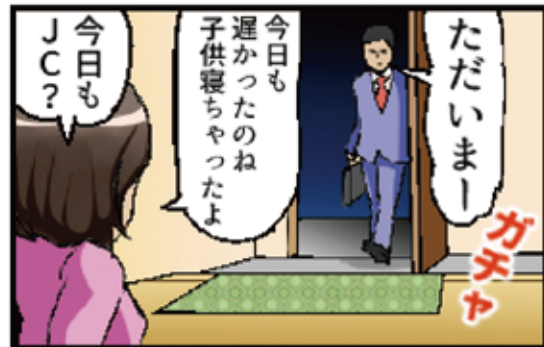
Family day



Family day 導入後



Family day 導入前



育
LOM

家庭も仕事もJCも全力宣言!

Q. これまでこのような取り組みを全く行なってきませんでしたが、何から始めるべきでしょうか？

A. 別途、JCI日本から発送した育LOM募集ポスターをLOMメンバーの目に触れる場所に掲出していただき、メンバー同士で育LOMに取り組んだ未来と取り組んでいない未来を想像して話あってみてください。こんな時だからこそLOMが変わるチャンスです。



スマート会議

(WEB会議の導入、時短会議の設定、会議終了時刻の遵守、議事進行方法の工夫、事前準備の徹底)

概要

JCには委員会や理事会など様々な会議があり、時には闊達な議論が交わされ協議が紛糾することや、準備不足により議事がスムーズに運ばないなど、会議が深夜にまで及ぶことがあります。しかしながら、長時間の会議＝生産性が高い理想的な会議とは言えず、長時間に及ぶ会議は参加者の集中力が持続せず、拘束時間も長くなることから議論の質が低下し、翌日に仕事を控えたメンバーへの負担も大きくなります。さらには、メンバーの帰りを待つ家族にとって、それは長い時間であり、きっと家族の早い帰宅を待ち望んでいます。また、家庭や仕事の都合により、会議開催の時間に会場に行くことが出来ず、やむを得ず会議を欠席するメンバーもいます。

様々なライフステージにあるメンバーの誰もが参加しやすく、生産性が高く理想的な会議の運営が、今JCに求められています。

そこで、4つの要素を盛り込んだ「スマート会議」を提案します。

4つの要素と取り組みの効果

①誰でもどこでも参加できるWEB会議の導入（参加者全員又は一部）

Zoom等のWEB会議サービスの導入はテレワーク推進の一躍を担い、様々な事情を抱えるメンバーが会議に参加しやすくなります。例えば、自宅で子どもをお風呂に入れてから、出張先の宿泊施設からでも、スマートフォンやカメラ付パソコンから会議に参加することが可能となります。その結果、家庭とJC、仕事とJCの両立が図られ、より生産性の高いJC活動の成果が期待されます。目的に応じてリアル開催とWEB開催、ハイブリッド開催や多様性を重視して昼間の会議も導入などを検討することが重要です。

②時短会議の設定・時刻の遵守

時短会議の設定をすることで、会議の内容に応じて時間を延長することなく、予め決められた時間内に会議で成果を出そうとする意識が働きます。意識が変われば行動が変わり、会議に向けた心構えや、より質の高い意見を期待されます。また、会議時刻を遵守することで、会議終了後の時間を有意義に活用することができ、メリハリのある会議運営が期待されます。

③議事進行方法の工夫

司会者や議長の議事の進行方向により、会議の生産性が左右されます。闊達な協議を行ない、会議本来の目的達成のため、会議の目的からの脱線の予防し、称賛や労いを言葉にして心理的安全性を保つことが重要です。限られた時間内で明確な結論を導き出すためにも、JCで推奨されているロバート議事法を熟知し、事前質問により会議時間短縮に繋げることや、円滑な議事進行に努めることで会議の生産性が向上します。

④事前準備の徹底

事業計画や事業報告など、JCの会議ではJC運動に関わる重要な議題について議論されます。メンバーの年会費を原資とした事業計画の妥当性が諮られる会議には、入念な事前準備が必要となります。議案や資料の徹底的な精査はもちろん、委員会を開催する際には、事前にスタッフ会議を開催するなど、会議の目的を明確にし、メンバーそれぞれの時間を有効活用するための努力が必要です。事前準備が徹底された質の高い会議を開催することで、メンバーの積極的な会議への参加が期待されます。

時間にメリハリのある会議

※日本青年会議所 HP>メンバー専用ページ>情報関係>JC プロトコル、にWEB会議や事業、例会等の構築方法が詳しく記載されています。





子連れJayceeへの^{しんしゃく}斟酌 (託児制度、子連れ参加等)

概要

小さな子どもをもつメンバーにとって、夜間や休日に行なわれるJCの諸会議や事業への参加と、積極的な育児参加は非両立の関係にありました。しかしながら、現代社会では女性活躍が推進され、ワンオペ育児の問題が顕在化し、多子化社会の実現に向けて男性の積極的な育児参加が推進されるなど、JC活動への参画の新たな形が求められています。公開例会等で一般参加者の動員を促すために託児室を設けることと同様に、メンバーのJC活動への子連れ参加を容認し、必要に応じて託児制度を設けるなど、育児とJC活動の両立を目指すメンバーへの柔軟な対応が必要です。

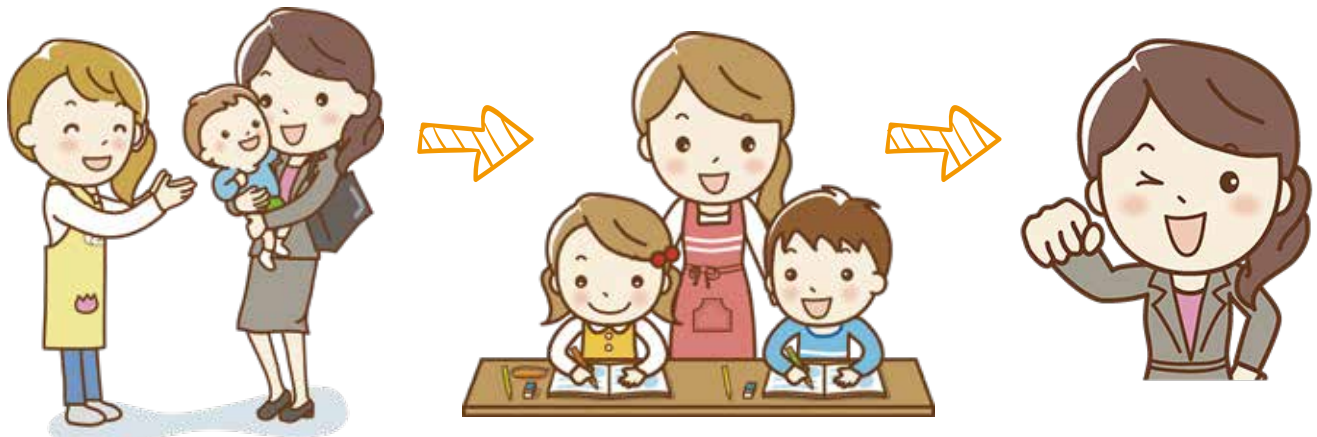
効果

積極的に子どもを連れてJCの事業や活動に参加することで、配偶者との育児負担の偏りを軽減し、良好な家族関係の構築が期待されます。また、子連れでの活動を容認されたJCに対する家族の肯定的な理解も促進され、これまでJC活動への参加に消極的であったメンバーも気兼ねなく活躍することが出来ます。

取り組み例

子どもの健全な育成と安全確保の観点を第一に考えつつ、委員会や例会等へのメンバーの子連れ参加を容認します。子どもの年齢に応じて、託児設備や保育スタッフを設置することも検討が必要です。

子ども連れでの例会・委員会への参画



JCに対する家族と会社の理解を促進する事業や取り組みの創出

概要

JCに所属し、毎年役職や役割が異なる単年度制の組織にあって、常に高い意識を持ち積極的に活動し活躍するためには、共に人生を歩む家族や会社のJCに対する理解が必要不可欠です。

明るい豊かな社会の実現を目指す活動の裏には様々な負担が伴いますが、JCの活動に家族や会社の参画を得て、共にJC運動を推進し理解や応援をしてくれるパートナーの存在があれば、これほど心強いことはありません。そのためには、日々の良好なコミュニケーションはもとより、定期的に家族や会社がJCの活動に触れ、JC運動への共感や理解を深めるための取り組みや情報発信が必要です。

効果

JC活動や運動に対する家族や会社の理解を深めることは、メンバーのJC活動への積極的な参画に繋がります。また、日頃からまちづくりや人づくり運動などの事業へ家族や会社が関わることで、能動的な市民の育成につながり、子どもが幼少期からこれらの活動に参加し体験することは、自律的に社会に関わる成熟的な市民意識と実践意識を育み、青少年の豊かな人間形成につながるなど、教育的な効果も期待されます。

取り組み例

日々のコミュニケーションの中で、自身のJC活動の経験や想いを家族や会社の方々と共有しましょう。公開事業など、一般を対象とした事業へ積極的に家族や社員と共に参加し、JC運動を共に体験しましょう。家族への日頃の感謝を伝えるために、家族例会や交流会なども有効です。JCの活動内容をオープンにし、広報誌などを通じて家族向けに情報発信を行ないましょう。

JC運動を家族や会社で共有

家族
例会

公開
事業



家族の理解の促進後



家族の理解の促進前



育
LOM

家庭も仕事もJCも全力宣言!

Q. 育LOM認定について相談したいのですが、どこに問い合わせれば良いですか？

A. ikulom.info@gmail.comにてメールによる相談を受け付けています。お気軽にご相談ください。



誰でも産前産後育児休会制度の導入

(男女問わず・会費全額or一部免除)

概要

日本の企業では産前6週間、産後8週間の計14週間の休業が労働基準法により認められています。育児休業も育児・介護休業法により定められていますが、男性の取得率が低いことから、近年は男性の育休義務化を目指す議員連盟が発足するなど、男性の積極的な育児参画を促進しています。

全国のJCにおいては、男性の育児休会の取得はほぼ実績がなく、産休育休として一部の女性メンバーの活用のみで留まっていることが調査の結果判明しました。様々なライフステージを歩むメンバーにとって、人生の一大イベントとなる子どもの出産や育児の機会をLOMが応援し共助の精神で支えることが必要です。LOMの定款や規則改正の議論をスタートし、メンバーの出産や育児に柔軟に対応する制度の策定を提案します。

効果

産前産後や産まれたばかりの子どもの育児は24時間休むことが出来ません。その様な状況下で、積極的に育児に参画しながらもJCで活躍することは困難を極めます。産休や育休制度を取り入れることで、メンバーは気兼ねなくJC活動を一時中断し、子育ての最も大事な時期に育児に専念することが出来ます。子育てを通じて親として成長したメンバーが育児休会を終え復帰した際にはLOMで活躍する人材になっているはずです。

また、子育てや仕事とJCの狭間で困難を抱えているメンバーにとっても、育児休会制度の活用は退会抑制に繋がるのが期待されます。子育てを行ないながらも活躍できる制度あるLOMとして認知されることで、会員拡大においても育児とJCの両立に対する不安を払拭し、女性にとっても安心して入会できるLOMとして優位に働くことが期待されます。

取り組み例

制度の導入についてはまずは議論を開始します。既存の休会制度との棲み分けについて、対象者や期間、休会中の会費の取り扱いについて検討します。会費を検討していく上で、定款変更が必要となることや休会中でも在籍していることで発生する費用もあることから、慎重に検討することが必要です。まずは出産や育児を理由とする「欠席」を周囲が「容認」し欠席カウントをしないというルール運用も制度変更のキッカケとなる取り組みとします。

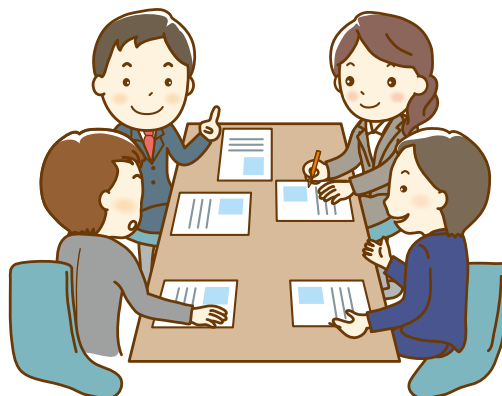
制度導入についてしっかり議論

対象者

期間

会費

etc...



産前産後/育児休業制度導入後

産前産後/育児休業制度導入前



Q. 私たちのLOMでは通常の休会制度で特例を設け、理事会の決議等で産前産後や育児理由による休会に対応していますが、不十分ですか？また、休会中の会費は全額免除ではなく一部免除となっています。

A. LOMの制度として、理事会決議等での産前産後や育児を目的とした休会制度を認めているのであれば問題ありません。ただし、LOMメンバーに対してそれらを目的とした休会が可能であることを広く周知を行なってください。

育LOM認定募集要項



育LOM認定の流れ

- ①「育LOM宣言6ヶ条」を例会等においてメンバー立ち合いのもと理事長が宣言する。
- ②「育LOM5つの取り組み」の内、3つ以上の取り組みを実施、または導入する。
- ③「育LOM認定フォーム」にて育LOM認定申請を行う。
- ④後日、審査の上、メールにて育LOM認定書(電子)、育LOMロゴ(プリント用、バナー用)を送付し、認定とします。

お問合せ先

公益社団法人 日本青年会議所
組織グループ LOM支援委員会
委員長 梅津 賢一
T E L:090-4721-6084
副委員長 中西 良貴
T E L:090-5952-4039
相談受付メールアドレス：
 ikulom.info@gmail.com



育LOM認定
申込みは
こちらから



育 LOM

家庭も仕事もJCも全力宣言！



■本件に関するお問い合わせ先
公益社団法人 日本青年会議所
組織グループ LOM支援委員会
副委員長 中西 良貴
TEL:090-5952-4039
メール: ikulom.info@gmail.com



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。